

ピカいち!!のまちづくり

林いさお通信



No. 111
討議資料

三富新田世界農業遺産へ

いさお後援会 平成 26 年 7 月



三富新田世界農業遺産推進協議会設立総会（6月27日）

6月27日、三富新田世界農業遺産推進協議会が農業関係団体はじめ関係者参加のもと設立されました。江戸時代から続く三富新田の平地林を利用した循環型農業を後世に継承していきたいと思えます。

三富新田 世界農業遺産申請へ

世界農業遺産は、国連食糧農業機関（FAO）が認定

する世界的に重要な農業システムです。近代化が進む中で環境悪化、人口増加の影響で衰退しつつある伝統的な農法、及びそれに伴う文化、景観、生物多様性を保全し後世に継承しようとして2002年に創設されたシステムです。

三富新田は江戸元禄期に川越藩主柳沢吉保によって開拓された三新田（三芳町上富、所沢市中富、下富）の総称です。平地林と呼ばれる雑木林や屋敷林、畑からなり、雑木林の落ち葉を堆肥にして利用する循環型農業が300年以上継続されています。

三富新田は、小学校の教科書に掲載されるなど有識者には高い評価をいただいています。設立会議では、国連大学の永田明氏、農水省関東農政局資源課長



絵本の館の「たまごの部屋」（7月7日）ドームの部屋に置かれた「木の砂場」には10万個の木の玉が入っています。

★『絵本の里』 剣淵町訪問

埼玉県町村会の研修視察で北海道剣淵町を訪問しました。

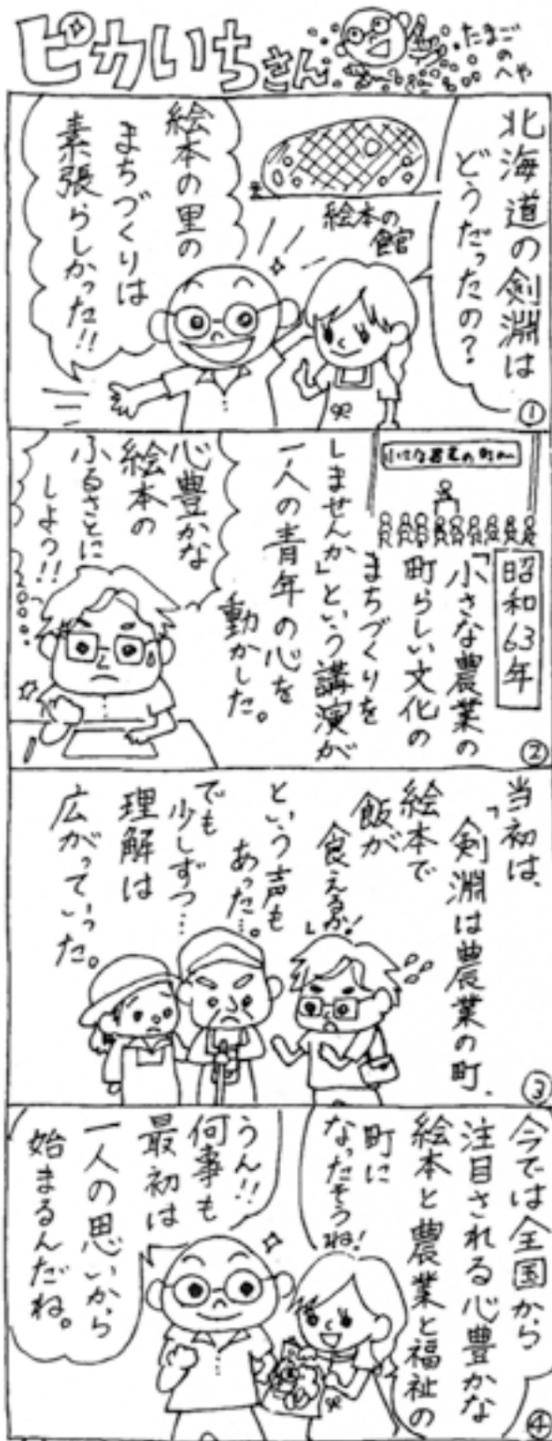
剣淵町は、明治32年に屯田兵によって拓かれた、豊かな自然と素晴らしい沃野が広がる純農村の町です。

昭和63年、まちの若者たちが「けんぶち絵本の里を創ろう会」を結成し、絵本を題材にまちづくりを始めました。その取り組みのユニークさが、マスコミで取り上げられ、「絵本の里けんぶち」としてその名が全国に広がっていきました。

平成16年に、新しくオープンした「絵本の館」が、絵本の里づくり活

動の拠点施設で、ここでは、世界中の絵本、約4万5000冊が収蔵されています。また「絵本の館」では、絵本原画展、読み聞かせ、絵本づくり、親子教室など様々な活動のほか、メインイベントとして「絵本の里大賞」を行っています。これは、前年度に全国で出版された絵本を対象にして、絵本作家や出版社から応募のあった絵本を「絵本の館」に展示し、来館した人たちの投票により大賞候補の絵本を選ぶものです。

◆編集後記◆
世界各地の先住民族の教えには、素晴らしい教えが残っています。アメリカインディアンやアイロコイ族では、物事を実行しようとする時に7世代先の子孫のことを考えて決定するそうです。7世代といえ、およそ200年。その子孫にどのような影響が及ぶか考えて、現在の行動を決めるということです。◆三富新田が開拓されて320年。今私たちは先人たちの知恵と汗の恩恵によって生かされています。しかし、現代人は、子孫の財産を先食いしているとされています。◆藻谷浩介氏の『里山資本主義』が話題を呼んでいます。経済、人口共に右肩上がりの時代は終わり、私たちは真に豊かな持続可能な社会を目指して歩んでいく時を迎えています。◆『幸せに生きる』とはどういうことなのか。三芳には、まだ多くの里山が残っています。アイロコイ族の教えに学ぶ時ではないでしょうか。



絵・長女瑛子

林いさお後援会事務所

電話 049-259-2228
〒354-0045 三芳町上富1003

神川浩一氏、東京農業大学進士五十八名誉教授から講演をいただきました。進士先生は、「自然保護の仕事でたまたま訪れた三富新田で、その素晴らしい感じを受けて40年経った。東京から30km圏に現存する農法は世界に誇る農村計画と言える。農業遺産認定は手段であり、大事なのは故郷を大事に思う意識を住民が共有すること」とエールを送ってくれました。

●今後の認定までの流れ

- ・ 6月27日設立会議
- ・ 7月末までに農林水産省に申請書提出
- ・ 8月23日シンポジウム開催
- ・ 9月～10月国内選考
- ・ 10月20日国内選考決定
- ・ 国内選考に残れば
- ・ 12月農水省、国連食糧農業機関（FAO）に申請書提出
- ・ 27年1月～3月FAO視察
- ・ 27年5月～6月国際会議にて認定

農業の振興、地域の活性化、そして愛する故郷のために、認定に向けて関係者の協力をいただきながら努力してまいります。

フォト通信



①国土交通大臣要望書提出（5月21日）

①国土交通大臣に要望書提出

現在、関越自動車道三芳PAはスマートICが新潟方面のみ利用可能というハーフ運用です。多くの方々から東京方面の利用もできるようにとの声もあり、フル化に向けて太田国土交通大臣に要望書を提出しました。利便性の向上はもとより地域の活性化、災害時の防災拠点としての役割も求められています。町内の企業や市民団体を中心としたスマートICフル化等促進会議でも実現に向けた署名活動を展開し、26,335名の署名が集まり併せて提出しました。



②キャラクタートレイン（7月）

②キャラクタートレイン

東武鉄道では、東武東上線が2014年5月1日（木）に開業100周年を迎えたことを記念し、東上線沿線で愛される、沿線自治体の各キャラクターを車体にラッピングした「キャラクタートレイン」を2014年7月1日（火）から2015年3月31日（火）まで運行いたします。三芳町のみらい君、のぞみちゃんも2号車に、また、中吊りでも三芳町のPRをさせていただきます。是非ご覧ください。



③中学生海外派遣団結団式（6月25日）

③中学生海外派遣団結団式

中学生海外派遣団結団式が開催されました。今年でマレーシアへの海外派遣は3年目になります。この2年間、参加された皆さんは大きく成長し逞しくなってきました。今年も15名の生徒が参加します。8月2日～8日まで。出合いを大切に、良き思い出をたくさん作ってきて欲しいと思います。また、9月にはマレーシアからの親善訪問団を受け入れます。



④消防団ポンプ車操法大会（7月6日）

④入間東部地区消防団ポンプ車操法大会

入間東部地区消防団ポンプ車操法大会が開催されました。二市一町から17隊が参加し、優勝三芳第四分団、準優勝三芳第一分団、3位三芳第三分団、敢闘賞三芳第二分団でした。平時は、普通の住民の皆さんと同じように様々な仕事をし「いざ火災！！」の時には深夜であっても火災現場に駆けつけ消火活動にあたり、住民の皆さんの生命、身体、財産を守っていただいています。通常は定期的に防火キャンペーン、予防広報も行っています。

★まちづくり懇話会開催



まちづくり懇話会

今年も住民の皆さんの声を町の政策形成に反映させるための「まちづくり懇話会」が開催されました。まちづくり懇話会は、住民の皆さんと一緒に町が抱えているテーマに関し意見交換をし、今後の町政運営に役立てていくことが目的です。6月15、22、28、29日の4日間にわたり、14行政連絡区の各集会所で総勢500人近い住民の皆さんにご参加いただきました。

ただいた質問への回答、③自由な意見交換、という3部構成で実施しました。

◆今年の主要テーマ

①第5次総合計画策定に参加を

総合計画は、将来三芳町をどのようにしていくのかを総合的・体系的にまとめたものです。現在、第4次総合振興計画（平成18年～27年）の中でまちづくりが進められています。平成28年度から第5次がスタートします。住民の皆さんと三芳町の将来像を共有し、来年度の12月議会上程に向け様々な意見交換の機会を設けますので多くの皆さんの参加をお願いします。

②秋からデマンド交通試行運転

平成22年度の住民意識調査で、「町に住みたくない理由」の第1位が「交通が不便」という結果でした。町では23年度に政策研究所を設置し、3年間調査研究してきました。いよいよ9月～11月の間、新しい公共交通の試行運転を実施し、27年度本格導入の予定です。新しい公共交通は、

デマンド交通（事前登録、予約制で玄関から病院、商店、公共施設などの共通乗降場へ運行）です。多くの皆さんのご意見を本格導入に活かしていきたいと考えていますので是非ご利用ください。

③スマートICフル化について

現在、関越自動車道三芳PAはスマートICが新潟方面のみ利用可能というハーフ運用です。多くの方々から東京方面の利用もできるようにとの声もあり、フル化に向けての事業概要、必要性、整備効果、アンケートによる住民意識調査の結果、課題と対策等について説明し、ご意見をいただきました。スマートICは利便性の向上はもとより地域の活性化、災害時の防災拠点としての役割も求められています。今後、関係機関との協議を進め、交通安全面や道路整備の具体的な計画を策定していく予定です。

※まちづくり懇話会の内容については、三芳町公式ウェブサイトや広報みよしでご報告させていただきます。また、各事業については随時ご案内させていただきます。

★エコパオープン



エコパ（余熱利用施設）オープニングセレモニー

三芳町は、ごみ処理をふじみ野市と共同で行っています。現在、ふじみ野市・三芳町環境センター新設事業が進められています。（場所・ふじみ野市）
供用開始は平成28年ですが、エコパ（余熱利用施設）は、それに先立ち6月17日にオープンしました。大広間、和室、多目的室、レストラン、サウナ、健康浴槽プールなどもあり、町内循環バスによって送迎も行っています。子どもからお年寄りまで楽しめる施設です。多くの方々にご利用いただけたらと思います。